

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策等研究事業）
分担研究報告書

両側副腎皮質大結節性過形成の診断基準、診療指針の作成に関する研究

研究分担者 宗友厚 川崎医科大学 糖尿病・代謝・内分泌内科・教授
研究分担者 田邊真紀人 福岡徳洲会病院 心療内科・内分泌・糖尿病内科・部長
研究分担者 西本紘嗣郎 埼玉医科大学 国際医療センター・准教授
研究分担者 笹野 公伸 東北大学 医学部病理診断学分野・教授
研究分担者 鈴木貴 東北大学 医学部病理診断学分野・教授
研究分担者 曾根正勝 聖マリアンナ医科大学 代謝・内分泌内科・教授
研究分担者 方波見卓行 聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院・教授
研究分担者 田辺晶代 国立国際医療研究センター病院 糖尿病内分泌代謝科・医長

研究要旨

両側副腎皮質大結節性過形成 (bilateral macronodular adrenal hyperplasia, BMAH) の診断基準・診療指針の作成にむけ診療実態を解明するため、疾患レジストリ登録症例の臨床症状、合併症、臨床検査データを検討した。

A. 研究目的

両側副腎皮質大結節性過形成 (BMAH) の診断基準・診療指針の作成にむけて、我が国の診療実態を解明する。

B. 研究方法

日本医療研究開発機構研究費（難治性疾患実用化研究事業）「難治性副腎疾患の診療に直結するエビデンス創出」研究班のレジストリに登録された BMAH47 症例の発見の契機、臨床症状や合併症、臨床検査データなどについて検討した。

（倫理面への配慮）

研究班全体の研究計画に関して、慶應大学医学部倫理委員会の承認が得られている (20170131)。

C. 研究結果

サブクリニカルクッシング症候群 (SCS) が 39 例（男性 26 例、女性 13 例；44～82 歳）、顕性クッシング症候群 (CS) が 8 例（男性 1 例、女性 7 例；48～72 歳）であった。

合併症に関して、高血圧は CS 全例と SCS の 36 例に、耐糖能異常は CS 6 例と SCS 24 例に、脂質異常は CS 6 例と SCS 25 例に、骨粗鬆症は CS 2 例と SCS 4 例に認められた。

D. 考察

男性例の多くがサブクリニカルな状態で推移するが、女性例の 1/3 は顕性化した状態で発見される、と云う可能性が示唆され

ている。ほとんどの例に高血圧を認め、耐糖能異常と脂質異常も高率に合併していた。

なし

E. 結論

両側副腎皮質大結節性過形成 (BMAH) の診療実態の解明にむけ、疾患レジストリ登録症例について、発見の契機、臨床症状や合併症、臨床検査データに関して検討した。

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

F. 健康危険情報

なし

2. 実用新案登録

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

3. その他

なし